

2020年度インカレミドルおよび団体戦の中止について

発行日：2021年2月19日

文責：谷野文史

2021年2月18日に開催された、幹事会において2020年度インカレミドルおよび団体戦の中止を決定した。日本学生オリエンテーリング連盟(以下、日学)での議論の経緯や、経緯をここにまとめる。

1.議論の経緯

A.開催判断基準決定のための臨時幹事会(2020年11月20日)

資料: <https://drive.google.com/drive/folders/1kkiMv5-aPF19SQHWQXPak5A1KXki3q9l?usp=sharing>

幹事会及びインカレミドル・リレー実行委員会での議論により、開催判断基準を定めた。後日、本会議で定めた開催判断基準の承認および加盟員の選択に任せる事項について総会を開催し、決議を執り行うことを決定した。

[開催判断基準]

①1/31(日)において、宿泊許可の下りた大学のみで、リレーチームがME20校未満またはWE20校未満の出場の場合は開催形態を、宿泊を伴わない形態とする。

→前年度のエントリー校数比で2/3未満の大学が出場できない場合は、選手権の質を担保できないと考えたため。

②2/19(金)において、大学より出場許可を得た選手がME45名未満またはWE22名未満の場合は、2020年度インカレミドル・リレーを中止とする。

→選手権クラスで3/4の選手が出場できない場合、選手権の質を担保できないと考えたため。

[加盟員の選択に任せる事項]

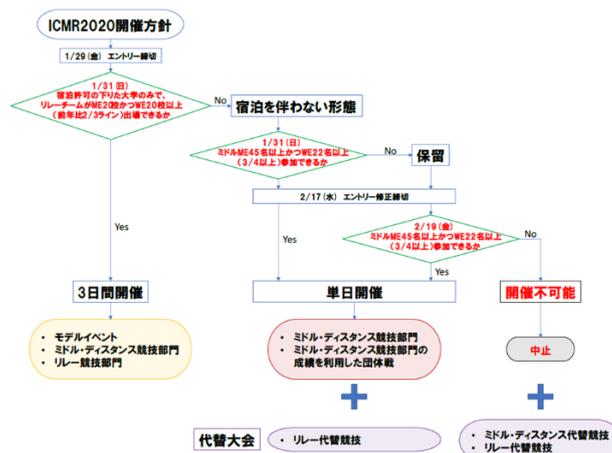
・宿泊を伴わない形態の場合、どの種目を開催するか？

○ミドル ○リレー ○ミドル及び団体戦の開催

B.開催判断決定のための臨時総会(2020年12月14日)

資料: https://drive.google.com/drive/folders/1_R7teF0dYPMVIYEDP61f-AfWro2rcjla?usp=sharing

臨時総会を開催し、上記の事項について採決を行った。その結果、以下の図に示すフローで開催判断を行うことを決定した。また、単日開催の場合の開催種目はミドル及び団体戦となった。①については31校、②については32校(有効回答数32校)の賛成が得られた。



C.インカレ代替大会の取り扱いに関する臨時幹事会(2021年1月19日)

資料: <https://drive.google.com/drive/folders/1aFNBHZOA5zj3dyHGvqIgz6O0jeewkXXU?usp=sharing>

新型コロナウイルス感染状況の拡大および日学の会計状況を勘案し、幹事会において、単日開催及び中止時に開催する予定であった代替大会を開催するかについて議論を行い、結論を出した。

①2020年度インカレミドルリレー中止時において、代替大会を開催しない。

→主な理由は、感染拡大と日学の会計状況の逼迫であった。

②2020年度インカレミドルリレー単日開催時において、翌日に代替大会を開催しない。

→主な理由は、感染拡大とコンプライアンスであった。

D.判断基準日①(2021年1月31日)

各大学の出欠登録の状況から、開催形態を宿泊を伴わない形態、つまり単日でのインカレミドルおよび団体戦の開催を決定した。

E.幹事への意見募集(2021年2月10日)

資料: <https://drive.google.com/drive/folders/1RY4sW8CuwErPG-ARLejbxqdcdbtDTjaq?usp=sharing>

各大学への聞き取りの結果、緊急事態宣言の延長に伴い開催判断基準日までに参加許可を得られない大学が多いことが判明したため、開催判断基準日の延期を検討することとなった。判断基準日の延期に伴い検討しなければならない論点として、

①判断基準を遅らせば遅らすほど、地図印刷費や試走費用がかかってしまう。

②判断基準日を引き伸ばしても、各大学が参加許可を得られるとは限らない

③開催判断を迷う状況になることを見越して、開催判断基準を策定し総会で承認したのにも関わらず、その判断を覆してしまってもよいのだろうか？

が、挙げられた。(詳しくは資料をご覧ください。)

今回は、幹事会は開催せず Slack での意見募集を行った。その結果、幹事は開催判断基準の引き延ばしについては肯定的でないことが確認できた。

F.インカレ開催判断のための臨時幹事会(2021年2月19日)

資料: https://drive.google.com/drive/folders/1il2IcV_j32POLYRC1ubKnE9e2ARdrP91?usp=sharing

開催判断のための各校の出欠登録の終了に伴い、開催判断のための臨時幹事会を開催した。出欠状況は、MEが30名/60名(50%)、WEが22名/31名(70%)であった。招集当初の目的は、①中止判断を行う、②総会において中止判断もしくは、開催判断を引き延ばすかを議論する、の①と②のどちらを幹事会内で選択するかであった。詳細は**2.中止判断の根拠**でまとめる。その結果、以下の投票結果となった。

①中止とする:9 ②総会において、中止及び代替案について議論を行う ③棄権:1

このため、2020年度インカレミドルおよび団体戦を中止することを決定した。

ここに記す会議の他にも、本議論について情報・意見交換の場をたくさん設けました。特に、実行委員会の皆様、山川さん、この場をお借りして感謝申し上げます。

2.中止判断の根拠

①判断基準日において不参加となっている大学が、インカレ開催までに参加許可が下りる可能性が低い
ため。

判断基準日において、選手権クラスの出欠状況はMEが30名/60名(50%)、WEが22名/31名(70%)というどちらも、基準を満たさない数であった。また、選手権クラスだけでなく、参加できない大学数で見ると21校(48校中)であり、約44%の大学が出場できない状況であった。これらの数字を客観的に評価した場合に、判断基準日を引き伸ばしたとしても、開催基準である選手権クラスの出場選手が3/4を満たすことは難しいと評価した。

さらに、大学の許可が得られず参加不可となっている大学に対して、幹事長である谷野がヒアリングを行った。その結果が、以下の通りである。

<p>凡例</p> <p>①現状の許可の状況 ②許可の見込み</p>	<p>C大学</p> <p>①活動に許可を出す主体は明確でない。課外活動及び課外活動施設の利用も3/7まで禁止 ②「緊急事態宣言解除後もすぐに課外活動再開となるとは限らない」と回答有。顧問教員を説得することで、参加可能を目指す。</p>	<p>F大学</p> <p>①許可も不許可も得られず ②2月時点では許可はもらえないが、緊急事態宣言後なら許可の可能性のある緊急事態宣言後に審査が始まるので、許可されるにしてもギリギリになるかもしれない。</p>
<p>A大学</p> <p>①緊急事態宣言解除までは対応方針は変えない ②インカレ直前に許可が出るかどうか。直接交渉を行ったが無理だった。 2/9:追記 規制が4/7まで継続することが決定。何名かの選手だけは出場できないか交渉中</p>	<p>E大学</p> <p>①現状は不可。理由としては課外活動について、緊急事態宣言中はオンライン以外禁止するのが方針であるため。 ②許可の見込みはあり。宣言解除後は活動再開を認める予定と方針が出ている。ただ宣言の解除の時期によるものが大きい。</p>	<p>G大学</p> <p>①現状だと大学からは緊急事態宣言が開催地である三重県の隣の岐阜県と愛知県に出ているためという理由で参加不可となっております。 ②理由が理由なので緊急事態宣言が解除されれば、参加可能になるかもしれない。交渉中であるが出場を渋られている。</p>
<p>B大学</p> <p>①1月以降、再開時期未定の課外活動禁止 ②宣言が解除されるまで読めない。動きが遅いので、解除後すぐに対応が行われない可能性もある。(不参加)</p>		
<p>凡例</p> <p>①現状の許可の状況 ②許可の見込み</p>		
<p>H大学</p> <p>①他地域の緊急事態宣言解除までは、活動許可を得られない。 ②緊急事態宣言後についても、段階的に規制が緩和されていくため、出場は厳しいと考える。</p>		

ヒアリングから緊急事態宣言が解除されたとしても、すぐに大学から出場を得ることは難しいと判断した。

これらの理由から、判断基準日の引き延ばしは効果を持たないと考えた。

②総会で承認された開催判断基準に基づき、幹事会内で判断することが日学にとって良い決断を下せると考えたため。

日学では、上述の通りコロナウイルスによる判断が難しい状況のために開催判断基準を設定した。この判断基準は総会においても、承認されたものであり、この基準に基づいて判断することが良いと判断を行った。

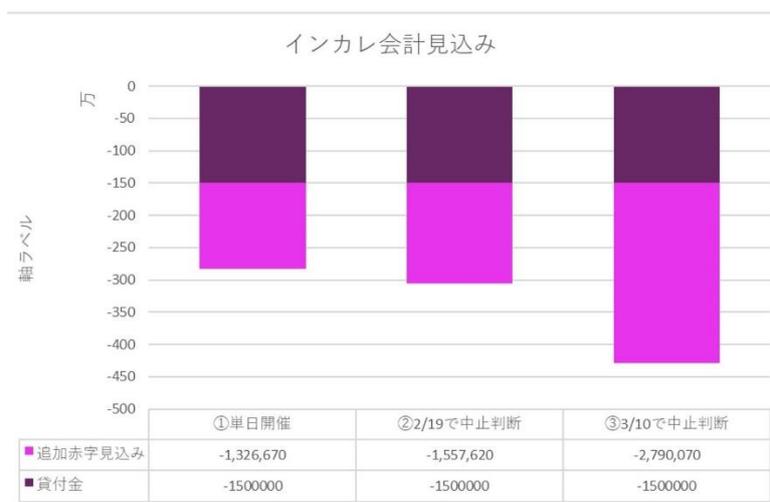
また、本議案について総会で議論を行うことも検討された。しかし、判断すべき時間が差し迫っている中、このような複雑な問題について本議題や日学の全ての状況をすべての加盟員に理解していただき、日学にとって最も良い判断を下すことは現実的でないと考えた。このため、日学にとって何が最善かを常に考え、時間をかけて議論してきた幹事を信頼し、その決定を尊重することが、日学にとってベストな判断を下すことができると考えた。

③開催判断基準日の引き延ばしは、日学会計の逼迫につながると判断したため。

資料: <https://drive.google.com/file/d/1QaClqwd802YeQo2FzS1Q9E66XLAJzoD-/view?usp=sharing>

まず上記の資料をご参照いただき、日学の会計の概要についてご理解ください。現在、日本学連は単年の支出を現金口座だけではまかなえない状態となっている。その主な要因は、今年度のコロナウイルスの影響にある。参加者が激減し、見込んでいた参加費を得られなかった2020年度インカレロングへの400万円の補填(総会により承認された)や、新入生の加盟が少ないことによる加盟費減、地図代収入減、など様々な要因により会計が逼迫する状況となった。もちろん、日学幹事会としては賛助金の呼びかけの強化や会議のオンライン化など、策を打ちましたが、それを凌駕するペースでダメージを受けた。

さて、本題に戻る。実行委員会の担当者の方に、開催判断基準日を引き伸ばした場合に追加的にかかる経費、および赤字の見込みについて試算していただいた。引き伸ばした場合は準備が進められるため、その分の地図印刷費、資材レンタル代、交通費、人件費等々かかる。その結果が、以下の図にまとめられている。



どの開催判断を選択した場合でも、すでに実行委員会に貸し付けていた150万円は返却できない見込みとなっており、開催基準日を引き伸ばした場合には、引き伸ばさずに中止を選択した場合と比較して約130万円程度追加的に赤字が増すことが見込まれた。

このため、開催判断基準日の引き延ばしは、今後の日学会計の逼迫につながると判断した。

上記の①～③に加え、選手の思いや今後の学生オリエンテーリング競技界への影響、運営者への負担など、様々な論点に対し議論を交わした(詳細は、議事録をご参照ください)。これらを総合的に判断した結果、

2020年度インカレミドルおよび団体戦は、中止が妥当である

と、判断した。